

「違う」って何？

はじめに

『「知らない」、「考えない」、「関心を持たない」ということはとても怖いことである。』私が、アドバンスコースに参加し、感じた一番大きな感想である。しかし、裏を返せば、「知っている」、「考えたことがある」、「関心を持っている」ということが、人生を豊かにし、可能性を広げられるということを学んだ。この学びのプログラムは、「多文化共生」や「多様性」、またもっと身近な「自分とは違う人」について考えるきっかけになればという思いで作成した。最初の一步はとても勇気がいるし、怖いものである。そんな最初の一步の手助けになればいいと思う。

全体のねらい

「違う」をキーワードに、自己の価値観を見つめ直し、これからの行動に生かす考えを持つ。

学習計画（全4～5時間）

- (1) グループに分かれてみよう！
- (2) 「違う」って何？

教科・領域との関係

特別の教科道徳、学級活動、総合的な学習の時間

アクティビティ1 「グループに分かれてみよう！！」

●概要

自分自身がグループに分かれる体験をする。ゲームの性質上、簡単にグループ分けできないことから、一度形成したグループを崩したり、何度か試行錯誤しながら行う必要がある。一人ひとりがグループを作るために発言すること、そしてグループのメンバーがその発言をしっかり聴くことが重要である。

●ねらい

グループ分けを通して、自己の価値観に気付き、排他性について考えることができる。また、他者との交流を通して、自己の価値観を再定義することができる。

●主な対象

小学生以上

●用意するもの

数字の書かれたカード、ワークシート①（P12～13）

●所要時間

50分（小学生の場合45分）

●おすすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
<p>1. 足して 100 ゲーム 「足して 100 になるグループを作ってください。」 一人につき 1 枚ずつカードを配布する。カードに 書いてある数字を足して 100 になるようにグ ループを形成する。</p>	<p>資料 1 「足して 100」 カードの組合わせ上、何度かグループを再編しな ければ完成しない。対象者にはグループの再編成 の困難を味合わせる。</p>
<p>2. ふり返り ワークシート①を全員に配布し、その問いを各自 で考え、記入する。</p>	<p>1 時間の学習をふり返る。</p>

資料1 「足して100」

(拡大コピーし、切り離して使用してください)

※学習者が3で割り切れない場合は、助言者として役割をあてるなど工夫する。

1	2	3	4	5
80	50	90	60	40
10	25	5	20	30
10	25	5	20	30

6	7	8	9	10
70	60	55	80	75
15	30	5	5	20
15	10	40	15	5

ワークシート①

()年 ()組 氏名()

振り返ってみよう！

足して100ゲーム

Q：あなたはゲームの中で発言しましたか？ (はい ・ いいえ)

理由

Q：あなたはゲームの中で始めから同じグループでしたか？

(様々な人とグループを入れ替わりましたか?) (はい ・ いいえ)

その時の気持ちを教えてください。

グループ分けをしよう！

Q：あなたはどんな基準でグループ分けを行いましたか？理由も教えてください。

感想

アクティビティ2「違いって何?」

●概要

違いについて深く考える時間とする。

自分自身の「アイデンティティ（存在証明）」に気づき、自己の存在と向き合う。また、その「アイデンティティ（存在証明）」を他者と比較することで、自己と他者の違いに気づかせる。様々な議論を通して、「国籍」や「性別」など身近にある名札の存在に気づく。また、日常生活の中で「アイデンティティ（存在証明）」について意識していることなどを通して、自らの排他性を問い直す。

「わたしが外人だったころ」を用いて、さらに広い視野で考える時間をとる。

●ねらい

「違い」をキーワードに、自己の価値観を見つけ直すことができる。

●主な対象

中学生以上

●用意するもの

ワークシート②～⑥、資料2～4（P18～23）、人物カード（CD）

●所要時間

50分×3～4時間（小学生であれば45分×3～4時間）

●用語の解説

アイデンティティ＝存在証明。自己を表す肩書きのようなものである。

例…私→中学校教諭、女、日本人、広島県民、娘、妹、1-1の担任…等

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
「あなたを表す言葉を見つけよう。」 1. ワークシート②を全員に配布する。下記の問いについて考える。 ①自分を表す言葉を決める。 ②班の人を表す言葉を決める。 ③班の人の意見をきく。	*言葉が見つからない生徒へは、言葉の書かれたプリントを渡す。 *言葉はいくつあっても良いこととする。 *自分の認識と、他者からの認識の違いに気付くきっかけとする。 *作成基準は自由であり、自分が思うものを記入する。

2. 交流の後にもう一度自分を表す言葉について考え、ワークシート②の④に記入する。

3. 1、2の活動をもとに、自分の名札をできるだけたくさん考える。

例：「女」「中学生」「日本人」「広島県民」「〇〇部の部員」「誠実」「明るい」「正直」など

その名札をワークシート②の「自分の存在証明を作ろう！」に「ポジティブ」と「ネガティブ」に分けて記入する。

4. 小グループ内でワークシートを回し、ポジティブ変換を行っていく。

資料2の「リフレーミング辞典」を配布しても良い。

*色々なアイデンティティがあることに気づく。

目安として、ここまでを1時間とすることが望ましい。

ここから2展開に分かれる。実態に合わせて選択する。どちらの展開を行ってもよい。

パターン1

5. このアイデンティティ（存在証明）の「おかげで」エピソード・このアイデンティティ（存在証明）の「せいで」エピソードを考える。

「このアイデンティティ（存在証明）のおかげで〇〇したエピソードはありますか。」や「このアイデンティティ（存在証明）のせいで〇〇と思ったエピソードはありますか。」と問いかけ、生徒のエピソードをあげてもらう。

例)

- ・「中学生」のおかげで学割が使えた。
- ・「明るい」のおかげで友達がたくさんいる。
- ・「女」のせいでバカにされたことがある。
- ・「広島県民」のせいで方言が抜けない。

その時、「無理に話をしなくてもいいです。話せる範囲でこたえてください。」と説明する。

6. ワークシート③を全員に配布する。「アイデンティティ（存在証明）」は必要？不必要？」を考え、ワークシート③に記入する。
自分の意見を発表する。

7. みんなの意見を聞いたのち、ワークシート③の「みんなの意見を聞いて…」に記入する。

パターン2

5.各班ごとに人物カードを配布する。班で話し合い、人物のグループ分けを行う。（グループの数は問わない。）

6.班ごとに発表する。
なぜそのグループにしたのか、理由や根拠を具体的に発表する。

7.ワークシート④を全員に配布する。ワークシート④の問いを考え、記入する。

8.「違う」ってなんだろう？
ワークシート⑤を全員に配布し、問いを考え記入する。

自分自身の価値と他者の価値についての違いを理解する。

人生において、名札は必要な時も、不必要な時も両方あると考える。

必要な時（例）

- ・自己紹介するとき
- ・自分を個として認識してもらおうとき
- ・価値を位置づける時
- ・グループ分けが必要な時

不必要な時（例）

- ・差別の対象となるとき
- ・グループ分けをしなくてもよいとき

*人物カードの中身は説明せず、班に配布する。
班の中で思考する時間を十分に確保する。

どちらの学習においても、「違う」がキーワードとなる。
パターン1：違うから存在証明は必要になる時がある。
パターン2：○○が違うからグループを分けた。
教師の中で、「違う」をキーワード化した上で、8に進む

「違うこと」について具体例を挙げる。
「違う人」について具体例を挙げる。

【予想される生徒のコメント】

「違う」

別・異なるもの・一緒ではない・同じではない

「違う人」

グループ分けしたときに分かれる。仲良しではない・趣味が違う・性別、国籍、宗教
など分類されるもの・考えが違う・見た目が違う

9. これまでを振り返る

自分と「違う」人にどんな風に接してきたのか
を考え、ワークシート⑤「これまでの自分をふり
返って」の欄に記入する。

これまでの自分の行動を振り返る。

大切なことは、自己のこれまでの行動をふり返り、
これからの行動の変革である。

そのため、これまでの行動について叱責などをす
ることなく、自己の行動を素直にふり返るよう促
す。

目安として、ここまでを2時間とすることが望ましい。

10. 「わたしが外人だったころ」の紹介

ワークシート⑥、資料3、4を全員に配布し、下
記の問いに対して考え、ワークシート⑥に記入す
る。

*資料3、4参照

問1

「わたしが外人だったころ」とはどのよう
な意味だろうか。

問2

資料3、4の文章を読んで、何を感じましたか。
また、あなたのこの文章を読んで、これか
らの行動で変えたいことはありますか。

11. まとめ

ふり返り

この学習全体をふり返り、ワークシート⑥「これ
までの自分をふり返って」の欄に記入する。

*生徒から出てきた言葉を用いてふり返る。この
時、これまでの学習の中での生徒の気づきを黒板
等にまとめ、生徒が自らの学びを確認できるよ
うにする。

ワークシート②

()年 ()組 氏名()

自分を表す言葉を見つけよう！

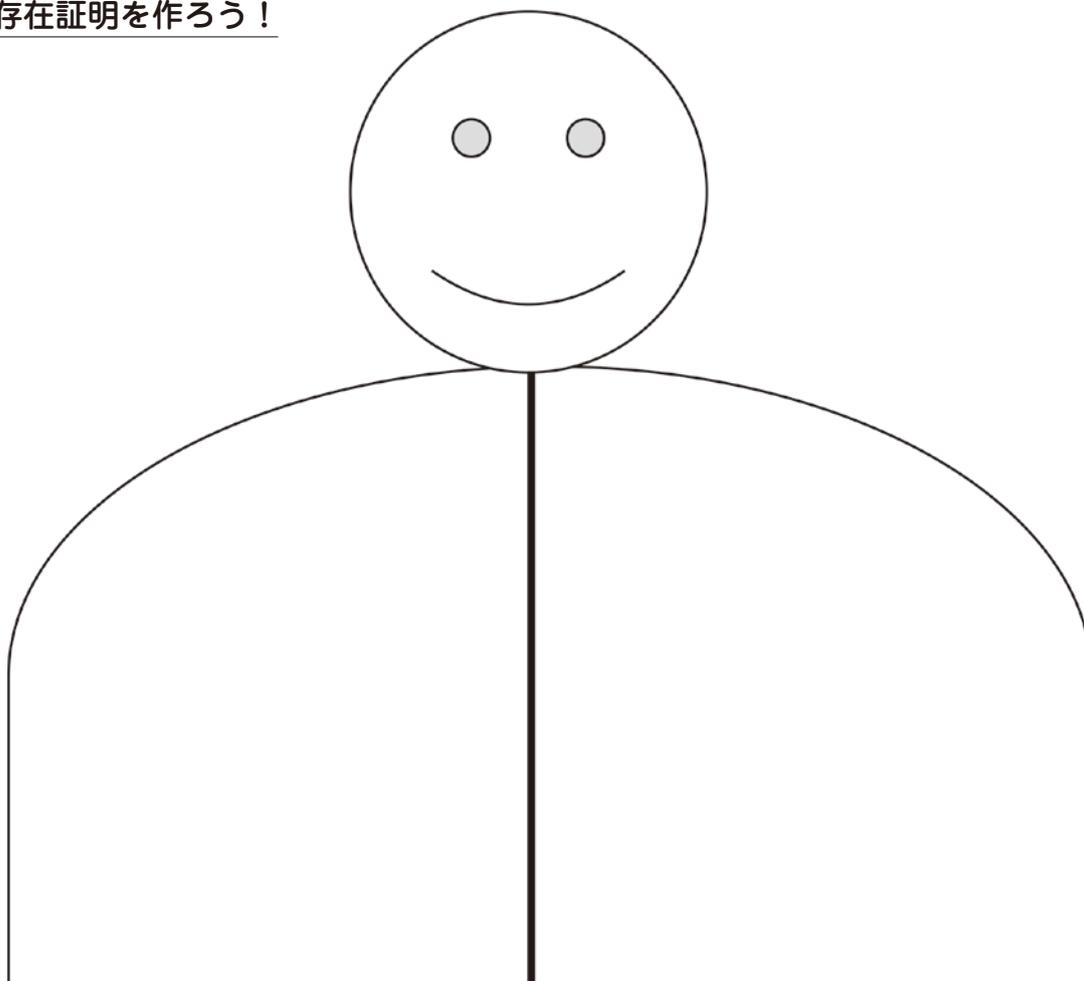
①自分で考える

②班の人を表す言葉を見つける

③班の人の意見をきく

④自分を表す言葉をきめる

自分の存在証明を作ろう！



資料2「リフレーミング辞典」

索引	書きかえたい言葉	リフレーミングすると	索引	書きかえたい言葉	リフレーミングすると
あ	甘えん坊な	人にかわいがられる	し	消極的な	ひかえめな
	飽きっぽい	好奇心旺盛な		す	ずうずうしい
い	あきらめが悪い	興味が広い	せ	せっかちな	堂々とした
	あわてんぼ	一途な		そ	責任感がない
う	いきがげんな	チャレンジ精神に富む	た	外面がいい	行動が機敏な
	意見が言えない	行動的な		だ	たまされやすい
お	いばる	行動が機敏な	ち	だらしない	社交的な
	浮き沈みが激しい	こだわらない		短	だらしがない
お	うるさい	おおらかな	つ	短気な	人を信じられる
	怒りっぽい	争いを好まない		な	情熱的な
か	おしゃべりな	協調性のある	て	情熱的な	おおらかな
	おっとりした	自信のある		な	情熱的な
か	おとなしい	心豊かな・表情豊かな	ね	根暗な	情熱的な
	面白みがない	明るい・活発な		の	のんきな
か	かたくなる	元気がいい	の	のんびりした	判断力がある
	勝ち気な	感受性豊かな		は	八方美人な
き	カッとしやすい	情熱的な	ひ	反抗的な	自立心がある
	変わっている	味のある・個性的な		ふ	人づきあいが下手
き	頑固な	意志が強い	ほ	人づきあいが下手	細やかな心をもった
	気が弱い	信念がある		ま	心づきあいが下手
く	きついが激しい	一貫性がある	む	人に合わせる	心の世界を大切に
	きつい感じの	人々を大切に		ま	一人になりがち
く	きびしい	我慢ができる	め	人をうらやむ	自立した・独立心のある
	口がきつい	情熱的な		よ	ふざける
く	口が悪い	シャープな感性の	ら	プライドが高い	陽気な
	口が軽い	責任感がある		る	ぼうっとしている
け	口が下手な	自分に自信がある	む	ま	細かいことにこだわら
	暗い感じの	率直な		ま	周囲を気にする
こ	けじめがない	率直な	む	負けずぎらい	心配りができる
	けちな	うそのつけない		む	向こうみずな
こ	強引な	社交的な	め	向こうみずな	思い切りがいい
	興奮しやすい	社会的な		む	無口な
さ	こだわりの強い	経済観念のある	ら	無理をしている	決断力がある
	ことわれない	情熱的な		め	命令しがちな
さ	ことわれない	感受性の強い	ら	目立たない	話をよく聞く
	騒がしい	相手の立場を尊重する		め	目立ちたがる
し	しつこい	人のためにつくす	ら	面倒くさがる	協調性がある
	自分がない	寛大な		め	よく考えない
し	自慢する	明るい・活発な	ら	乱暴な	素朴な・協調性がある
	地味な	元気がいい		ら	ルーズな
し	地味な	ねばり強い	ら	無口な	おおらかな
	地味な	協調性豊かな		ら	無口な
し	地味な	自己主張できる	ら	無口な	たくましい
	地味な	自分を愛している		ら	無口な
し	地味な	素朴な・ひかえめな	ら	無口な	おおらかな
	地味な	素朴な・ひかえめな		ら	無口な

ワークシート③

()年 ()組 氏名()

アイデンティティ（存在証明）は必要？不必要？

みんなの意見を聞いて…

----- 〈キリトリ線〉 -----

ワークシート④

()年 ()組 氏名()

グループ分けの時に重視したポイント

他の班の意見を聞いて…

ワークシート⑤

()年 ()組 氏名()

違うこととは?

違う人とは?

これまでの自分をふり返って

ワークシート⑥

()年 ()組 氏名()

「わたしが外人だったころ」とはどのような意味だろうか。

文章を読んで、何を感じましたか。また、あなたのこの文章を読んで、これからの行動で変えたいことはありますか。

これまでの自分をふり返って

資料3

紹介例

「わたしが外人だったころ」というフレーズは本のタイトルです。作者は鶴見俊輔さんの体験をもとに書かれたものです。鶴見さんは1922年生まれで2015年に亡くなりました。鶴見さんは15歳の時渡米し、アメリカで戦争を迎えます。その後、戦時交換船で日本へ帰国しました。

渡米したときは、アメリカでは日本人という立場であることから自分自身を「外人」と感じていました。帰国後も、敵国のアメリカ人を憎めないことやアメリカ生活の長さから、日本人のなかで「外人」として生きてきたことで、自分自身を「外人」と感じていました。そんな鶴見さんの経験から、皆さんに学んでほしいことがあります。

資料4

「わたしが外人だったころ」P40より

地球の人口は72億人。日本国民の人口は1億2千万人です。

地球上の人間全体の中で、日本人にとっては、外人のほうが多い。日本人は、外人にとりかこまれて、この世界でくらしているのに、日本本位に考えるのでは、わたしたちは地球上に住みにくくなります。

おわりに

100人が学べば100通りの感想や気付きがある。どれかが正解ではなく、どれも正解であるという考えが大切である。学習者のみならず、教える側の教師にも学びのチャンスであると考え。この学習をしたことで、まずは最初の一歩を踏み出したことに大きな意味があると思う。

自分自身と向き合うこと、振り返ることが多い学びの内容となっている。苦手意識を持っている学習者も多いだろう。意見がまとまらなくても、考えることや向き合うこと自体に大きな意味がある。学習者一人一人にとって、最初の一歩となることを願っている

参考・引用文献

『同級生は外国人！？』 1～3 (吉富志津代／汐文社)

『わたしが外人だったころ』 (鶴見俊輔／福音館書店)

〈アクティビティ1〉

「お願い、協力して！」 (『地球市民を育む学習』 P148～、グラハム・パイク、ディヴィット・セルビー共著、中川喜代子監修・阿久澤麻理子訳／明石書店)

〈アクティビティ2〉

「みんなでリフレーミング」 (『エンカウンターで学級が変わるPart3 中学校編』 P82～、中里寛・國分康孝監修、大関健道・藤川章・吉澤克彦・國分久子編集／図書文化)